

## 花と緑に満ちた美しい街並みを作ろう

佐々木 秀博

「第十九回全国都市緑化やまがたフェア（やまがた花咲かフェア02）」が今年の六月十五日から八月二十六日の日程で、寒河江市、新庄市を主会場に開催される。私は、このフェアの実施運営にあたる実行委員会事務局の一員として準備にあたっている。時々、「緑化フェアって一言でいうとどういうイベント？」との問いに遭遇する。実は、一言でと言われると困る。ガーデニングショーとは違う。花と緑の見本市でもない。花と緑の博覧会に近いが、「やまがたフェア」は相当性格を異にする。結局一言では答えられず、「緑豊かな潤いのある街づくりを目指して、窓辺に花を くらしに緑を 街に緑を あしたの緑をいまつくろう」を全国共通テーマに、昭和五十八年の大阪フェア以来毎年各地で開催されている花と緑の全国規模のイベント・祭典である」などと答えてみたりする。

全くの私見であり、ちよつと乱暴だが、学校にたとえて考えてみると分かりやすいように思う。学校は、立派な校舎を建て優秀な教師を集めることが目的ではない。生徒がそこに集い、よく学び、よく遊ぶ。そして卒業後、そこで得た知識、経験を社会で実践で生かすことを期待する。実は緑化フェアも、主会場というキャンペーンとスタッフを整備することで完結しない。そこに集い、参加する人々に共感、感動を与え、花と緑に関する知識、技能の習

得の場を用意する。そしてフェア終了後に身近な家庭や地域で緑化活動の実践を期待する。こつた意味で、やまがたフェアは、誰もが入学できる「花と緑の学校」といえるかもしれない。

それでは、どういう「学校」づくりをめざしているのか。自然豊かな田園都市ならではの山形ならではの地方色を大切にすること。家庭や身近なところで役立つよう実践的でわかりやすいこと。寒河江、新庄という二つの「キャンパス」（主会場）の個性と補完関係を大切にすること。県民の手作りやボランティアを大事にした「学校」づくりを進め、できるだけ多くの県民に入学してもらうこと（県民総参加）。「キャンパス」（主会場）内にとどまらず、広く全県、全市町村での「課外活動」の展開を図ること（全県展開）。

ところで、緑豊かな美しい街とは、どういうものなのだろう。実は、十人いれば十人それぞれが違うイメージをいだいて不思議ではない。だから、これが理想の姿と青写真を描くことは困難である。ニュージブランドのクライストチャーチやイギリスのコッツウォールズの街並みが美しいと言われ、世界の多くの人々の憧れとなっている。なぜ、美しいのか。私なりに考えるに、一つ一つの庭は実に個性的でありながら、全体としては一つのトーンを持って調和がとれている。そして、その土地、気候に合った植物が、

日々愛情を注がれ生き生きとしているからではなからうか。気候、風土、生活様式も違うこれらの英国風ガーデンを山形にそのまま取り入れようとすることも成功はしない。しかしながら、そこに住んでいる人々が花と緑のある暮らしを楽しみ、緑に愛情を注いでいる姿は実に示唆に富むものだと思う。こつたライフスタイルの確立に向けて、やまがた「学校」が道しるべを示し、支援する生きた教材、体験の場を提供することが大切である。

また、緑豊かな美しい街並みづくりのためには、一人ひとりが自分の庭（住空間）に愛情を注ぎ、美しいと思える緑の空間にしていくとともに、自分たちの街は、自らも積極的にかわりながら美しくしていこうという意識付けと具体的な活動が欠かせない。寒河江市などで推進されている住民、企業、行政が一体となったグラウンドワーク（地域環境美化活動）は、これからの地域づくりを考えた上での一つの手本であり、やまがた「学校」においてボランティアや「課外活動」を重視する理由でもある。

「花と緑のやまがた学校」「花咲かフェア」が、住む人々の心に豊かさや潤いを与え、訪れる人々に感動と憧れをいだかせるような緑うるわしい街並み・地域づくりへの出発点となることを夢見ながら、残された半年「学校開設準備」にあたりたい。

（上山市河崎四丁目 一 一）